

天然染料染色絹布の光劣化

— 基質・媒染剤・染料の影響 —

○谷田貝麻美子（東横学園女短大）・馬越芳子（農水省蚕昆研）

メアリー・ベッカー（福井大）・佐野千絵（東文研）

生野晴美（東京学芸大）・小原奈津子（昭和女大）・齊藤昌子（共立女大）

《目的》 染織文化財の適切な保存、展示、修復のための基礎的知見を得ることを目的として、天然染料染色絹布の光劣化に及ぼす諸要因の影響について検討を行った。

《方法》 基質として絹布（生織物、後練り織物）、媒染剤として金属塩（Al³⁺種、Fe³⁺種）、染料として天然色素（クルクミン、ヘマトキシリン）を用い、これらの組み合わせにより、媒染布、染色布、媒染・染色布を作成した。キセノンランプを光源として試料布を400hまで暴露し、暴露前後の強伸度を縦糸について測定した。

《結果》 媒染布の光劣化に及ぼす媒染剤の影響では、アニオンの種類によらずFeが顕著な強度低下をもたらした。媒染・染色布の強度低下は、染料と媒染剤の組み合わせによって異なった。媒染や染色の有無にかかわらず、後練り織物の方が生織物に比べて光劣化の程度が大きく、生糸のセリシンによる保護効果が示唆された。